

# まちの話題あれこれ

## その手に命を感じて

～吉里吉里中学校生が赤ちゃんとおふれあう～

「かわいいー。」「小さいー。」と生徒たちの歓声があふれました。

9月3日（月）、桜木町保健福祉会館において、吉里吉里中学校の3年生と赤ちゃんがおふれあいました。これは、吉里吉里中学校の家庭科の授業の一環として行われ、生徒たちは事前に赤ちゃんを抱く練習や、ミルクを飲ませる練習などを行ってきました。

はじめは、「かわいいね。」「手が小さい。」など和やかでしたが、赤ちゃんがぐずりはじめると、あやすことができずお母さんに頼らなければならない場面も見られました。また、慣れない手つきでミルクを飲ませたり、おむつを替えたりする時には緊張が見られました。

ふれあいの時間が終わると、「かわいいけど大変だね。」「お母さんてすごいね。」と、子育ての大変さを実感していました。



## 人形に込めた「安全の願い」

～地域安全・交通安全わら人形まつり作戦～

9月21日（金）、金沢駐在所連絡協議会、釜石地区交通安全協会大槌支会金沢分会の主催による、地域安全・交通安全わら人形まつり作戦が行われ、地元金沢の長寿会などのみなさんが、伝統のわら人形を制作しました。この人形は元々、立春から二百十日の時期に、作物が無事収穫できることや家族全員の無事を願って作られていたもの。時代の移り変わりとともに、ほとんど作られなくなっていました。地域安全と交通安全を願い、地区の皆さんによって復活しました。秋の全国交通安全週間に合わせて作られたこの人形は、旧金沢小学校前の県道沿いで刀を構え、地域住民を見守っています。



## もとの美しい神社に

～鯨山神社を清掃～

海から離れた鯨山神社にも震災の爪痕は残っていました。

9月2日（日）、鯨山神社にスコップや手押し車を持った多くの人が集まりました。震災により崩落した岩の撤去や、度重なる豪雨の影響により掘り返された地面を整備するためです。

鯨山神社総代長の久保栄蔵さんによると、「震災により不動滝上部が大規模に崩落し、水の流れが変わった。そのため川が氾濫しやすくなり、被害が拡大した」とのこと。

清掃に参加した人たちは、流れる汗を拭いながら、もとのきれいな神社を取り戻すために、掘り返された地面を埋めたり、伸び放題だった草木を伐採していました。

まだ、元通りとは言えませんが、清掃前に比べると見違えるように整備された神社には、復興に向かう地域の団結力が表れていました。



## 復興へ、期待の新戦力

～自ら考え行動する～

グループに分かれ、復興に向けて議論を交わす表情は、真剣そのものでした。

9月1日（土）に小鍬神社ふれあいセンターにおいて、高校生と町長が、町の復興について議論を交わしました。

参加した高校生は、復興計画を読むなど、この日のために様々な準備をしてきました。町長との議論ではその準備が十分に発揮され、自分が抱えている疑問や意見をしっかり町長に伝えていました。

町長との議論を終えた後も、自分たちがこれからどのような行動していくのか各グループごとに議論を交わし、頼もしい姿を見せました。

